

る。また、職員は全員、救命講習を受講している。

### ●食育の推進

食育の取組として、子どもたちに食材に触れる体験の場を設け、日々の食事に興味を持ってもらえるよう工夫をしている。子どもたちは、枝豆のふさ取りやトウモロコシの皮むきにチャレンジし、採った枝豆やトウモロコシは茹でておやつにしている。夏野菜の話をした後に、箱の中に何の野菜が入っているかを当てるクイズを行って、食物に関する知識と選択力を自然に身につけられるようにしている。

おやつやパンも手づくりにこだわっている。野菜が苦手で食べられなかった子どもが野菜入りの給食を美味しいと言って何度もおかわりをして食べられるようになった。

行事食は、年間の行事ごとに献立を作っている。5月であれば、子どもの日にこいのぼりランチを提供している。1歳半～2歳児向けにはチキンライスこいのぼり、0歳児には離乳食のケチャップ粥こいのぼりと子どもの成長に合わせ調理方法も変えている。

アレルギーの子どもには、食器の色を変え、トレーに名札を貼り、職員が複数で声を掛け合って確認、配膳している。



一般食 チキンライスこいのぼり



離乳食 ケチャップ粥こいのぼり



ふさから枝豆を取り出す

5月 こどもの日 こいのぼりランチ

## 企業主導型保育事業への取組の効果

### ●企業にとって

産休・育休後の従業員の職場復帰が円滑になり、従業員と職場の両者にとって効果があった。保育施設を設置したことで、若い世代の従業員にも安心して働き続けられる職場であるとの理解が進み、仕事へのモチベーションが向上した。子育て世代の新規採用や新卒者の採用も進み、保育施設の設置は事業継続の上で大きな効果がある。

### ●地域にとって

子どもたちが歌を歌いながら保育施設の周辺を散歩すると、地元の人たちから拍手をしてもらうことがある。保育施設の隣の介護老人保健施設とは定期的に訪問し合い交流している。夏祭り、敬老の日のハガキ作り、ハロウィン、クリスマス会など保育施設にはたくさんの行事があるが、卒園してからも夏祭りなどに遊びに来てくれる親子もいて、地元と良い関係が築かれつつあると感じている。

### ●保護者にとって

保育施設は小規模で、子ども一人ひとりに丁寧に対応した保育が実現できている。安心して子どもを任せられて仕事に集中できると、保護者の満足度は高い。

保育施設が職場の近くにあるため、子どもの送り迎えが楽である。また、開所時間も7時～20時までと朝早くから夜遅くまで子どもを預けられるため、急な仕事でお迎えが遅くなる時も柔軟に延長保育で対応できる。夕食も希望すれば提供してもらえるため、従業員は安心して子育てと仕事の両立ができる。

保育施設は、保護者が子どもの様子を身近に見ることができるよう職場の近くに設置しており、保護者の職場との交流も盛んに行っていることから、保護者に安心感や信頼感がうまれている。

## 企業担当者・利用者・自治体関係者の声



企業担当者の声

自社の目的である人材確保、特に子育て世代の雇用において大きく貢献しています。また、年度途中での育児休業からの復職者が安心して入園でき、保育時間が長いので急な早出や残業にも対応し夕食も提供するので保護者から喜ばれています。さらに、地域の方から子どもたちの笑顔を見ることで元気がでますと感謝されています。今後は保育園を多くの方に認知していただき、少しでも就職を希望する方が増えると幸いです。



従業員利用者の声

給食が美味しいくて、よく食べているようです。保育施設に通えるのは2歳までなので3歳から他の保育園に移らなければならないのですが、できればこの保育園にずっと預けていたいです。小規模で子どもたち一人ひとりに目が行き届いているので安心して働けます。